



# 中世石見の山城（1） 石西の領主の興亡と山城

しまねの古代文化連続講座「しまねの山城」第1講  
益田市歴史文化研究センター 中司 健一

# はじめに

## 【主要な参考文献】

- ・島根県教育委員会編『石見の城館跡』1997年。
- ・高屋茂男編『石見の山城』ハーベスト出版、2017年。
- ・益田市教育委員会編『中世益田ものがたり』益田市・益田市教育委員会、2017年。
- ・島根県古代文化センター編『石見の中世領主の盛衰と東アジア海域世界』島根県古代文化センター、2018年。
- ・『島根県の合戦』いき出版、2018年。
- ・島根県古代文化センター編『中世石見における在地領主の動向』島根県古代文化センター、2022年

## 【主要な史料集】

- ・東京大学史料編纂所『大日本古文書 家わけ第二十二 益田家文書之一～五』東京大学出版会、2000、03、06、12、21年。
- ・益田市教育委員会編『中世益田・益田氏関係史料集』益田市・益田市教育委員会、2016年。

# 石見国

- ・石見国はおよそ島根県の西半分。
- ・おおよそ大田市・美郷町より西側の地域（出雲市、飯石郡飯南町、広島県山県郡の一部も含む）



石見国の範囲

(出雲市、飯石郡飯南町、広島県山県郡の一部も含む)

(元図：「島根県の位置と市町村」より、以下同)

<https://www.pref.shimane.lg.jp/admin/seisaku/koho/kodomo/ichi.html>



# 石見の地形

- 石見は全体に山がちで、海や川沿いに平野や盆地が点在する。
  - • 領主が割拠しやすい。
  - 山城は隨所にある。



20 km



# 中世石見の八雄

- ・石見では、一国を統一する領主は現れなかつたが、点在する平野や盆地に有力領主が割拠した。
- ・特に有力であったのが、益田氏、三隅氏、周布氏、福屋氏、吉見氏、高橋氏、小笠原氏、佐波氏の八氏



一部の家紋は「見聞諸家紋」  
(国立公文書館デジタルアーカイブより  
<https://www.digital.archives.go.jp/das/meta/M10000000000000051051.html>)

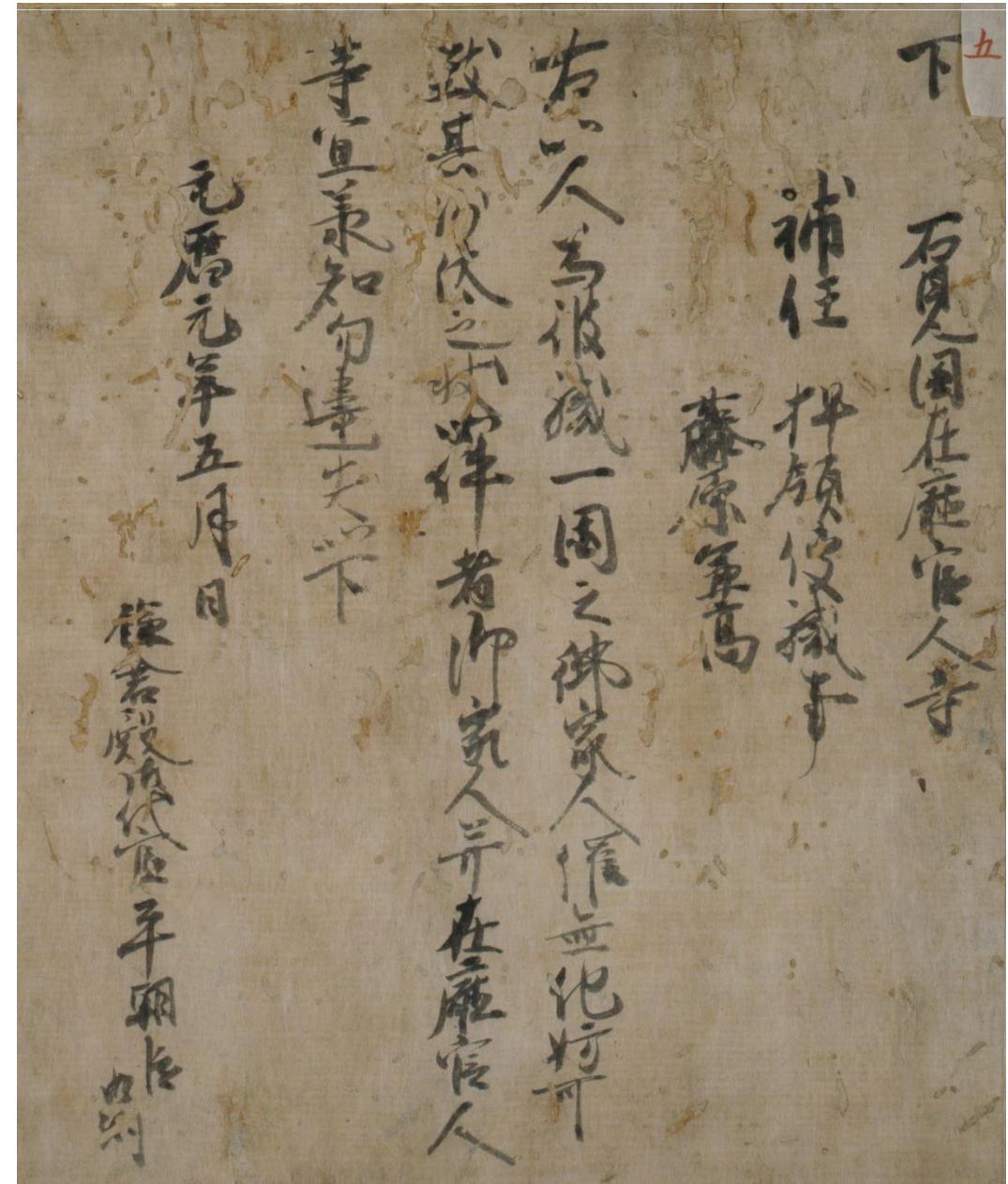
# 本報告の目的

- 本報告では
  - 石見西部（およそ江津市や邑智郡以西。東部については目次報告を参照のこと）の
  - 中世史、特に南北朝時代と戦国時代の争乱にふれつつ、
  - 石見の西部の主要な山城を紹介していく。
- 
- 領主としては、益田氏、三隅氏、周布氏、福屋氏、吉見氏を主な対象とし、益田氏が中心となる。

# 1 石見西部における 南北朝の内乱と山城

# 中世石見西部の歴史 (鎌倉時代初め)

- 源平合戦の際、石見の多くの武士が平家方の味方をする中、益田氏の祖・藤原兼高がいちばんやく源氏方についたとされる。
- これにより、藤原氏は石見の大半に及ぶ所領と押領使（武士の統率者）の地位を与えられる。



梶原景時下文案（東京大学史料編纂所所蔵「益田家文書」1号のうち）

# 鎌倉時代 一族の分出と割拠

- ・藤原氏の嫡流は、益田を本拠とし益田氏を名乗る一方、三隅氏、福屋氏、周布氏などの一族が自立した動きを見せる。
- ・彼らは同族という意識を持つつも、互いに争うようになる。
- ・承久の乱後、吉見氏も入部してくる。



一部の家紋は「見聞諸家紋」  
(国立公文書館デジタルアーカイブより  
<https://www.digital.archives.go.jp/das/meta/M10000000000000051051.html>)

# 南北朝の内乱

## 石見の南朝方

- 南北朝期、石見国では南朝方が強力であった。
- 益田市高津を本拠とした高津氏は鎌倉幕府滅亡時に、高津道性が北国「十ヶ国」の軍勢を率いて長門探題を滅ぼす。
- この功績もあって建武政権下で高津道性や高津長幸は石見守護または守護代となる。
- 三隅兼連（信性）は石見南朝方の中心として活躍する。
- 1336年、三隅兼連率いる南朝方は「**益田城**」（七尾城と考えられる）に攻め込み、「北尾崎木戸」を打ち破る。
- このとき益田氏の主だった人々が戦死した可能性がある。

石見國因布郷内村比頭達義承  
兼茂謹言上

右當國將軍之同屬二滿二郎入道  
信性権義河内源之處數款人大將  
益田二郎古而兼引同令弟二郎  
吉十而以下之輩卒殺千騎之  
軍號木桶義長由來之同令刀晉

抑多役体責破北尾濱本戸  
寂々金錢大本代大名房頭取  
卒仍大將二滿古而兼知見之  
上左軍錫印一狀為備上覽  
粗言上少併

延元二年七月廿六日

内兼茂 沙津桂利

内兼茂軍忠状写（山口県文書館所蔵「閥閱錄」卷121周布）

# 南北朝の内乱

## 益田兼見の登場

- ・この頃から登場し始めるのが益田兼見。
- ・兼見は嫡流ではなかったと考えられているが、益田氏の中心的な存在として活躍し始める。
- ・1340年から南朝方が籠る**稻積城**を包囲し、1341年正月に三隅氏が兵糧を運びこもうとしたのを阻止する。翌2月18日、**稻積城**は陥落する。
- ・さらに同日、**高津城**も攻め落とす。

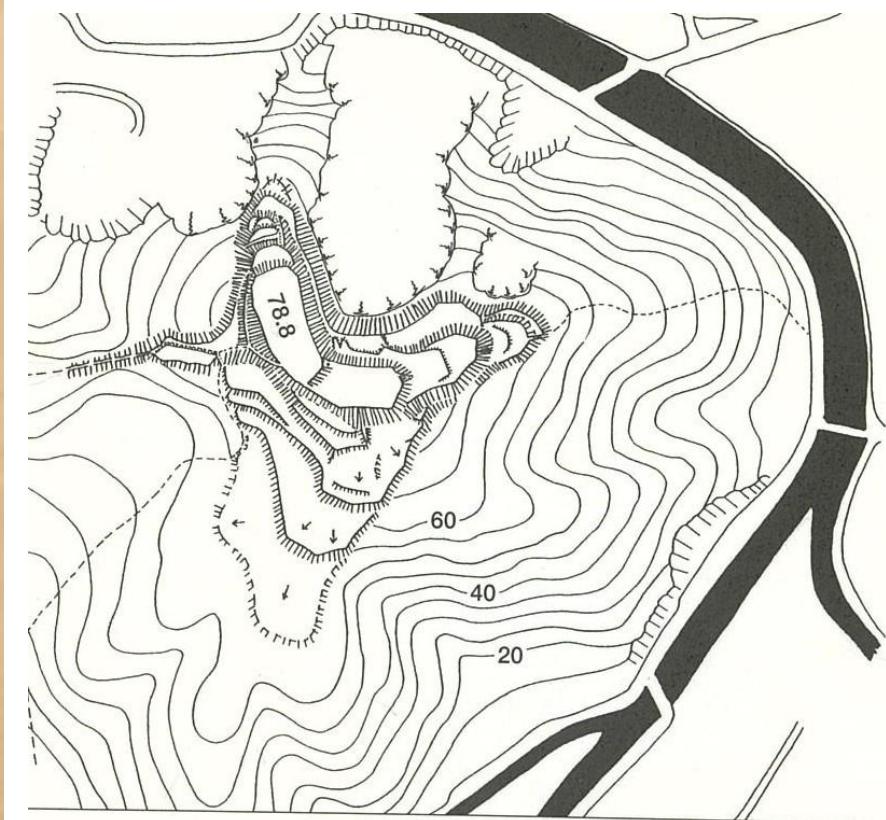


益田兼見像（万福寺所蔵）

# 稻積城と高津城



# 稻積城跡



稻積城跡略測図 ( $S=1:3,000$ )

稻積城跡縄張図 (寺井毅氏作成  
島根県教育委員会1997)

石見國御神子於次河原原野軍  
忠事

右山國度日灯火矢木道第一下之二通北  
桶穂城之同信為近取見縣。此平障壁同配  
印佐城度之敵被草屋下尺夜高望更道  
往性正背大日名桶植成交去根本木之間配行性  
因役所役被今義市苗共根本木叶配行性  
人藤三行散官侍前松田右近侍監役身元  
一ノ月九日取火役為毎日外役。改年忠七  
年二月大夏不防房下此役御奉元上之有以修

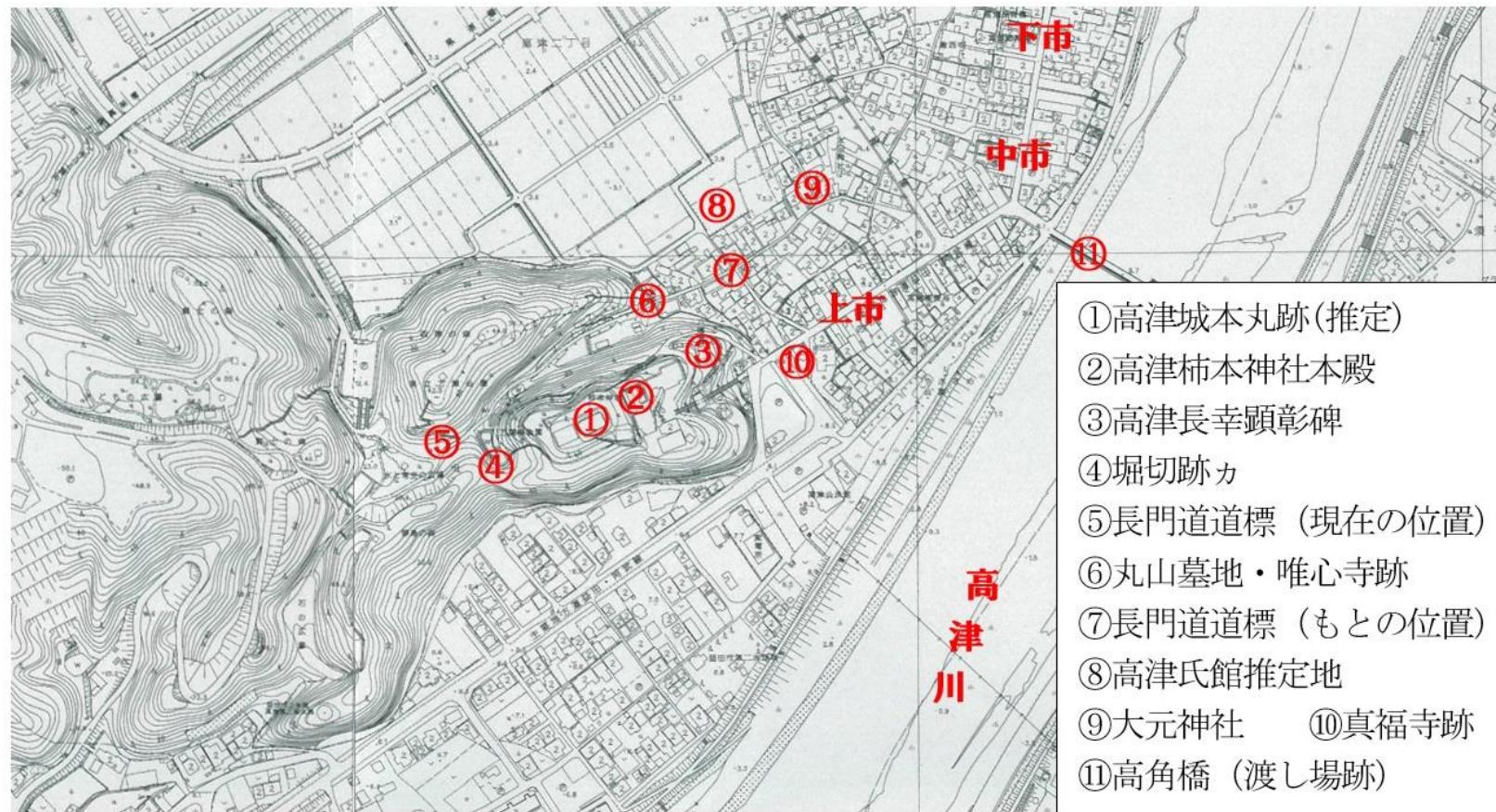
門船毛上也。付  
寫在西暦三月 日

益田兼躬(兼見)軍忠状(東京大学史料編纂所所蔵「益田家文書」43号)

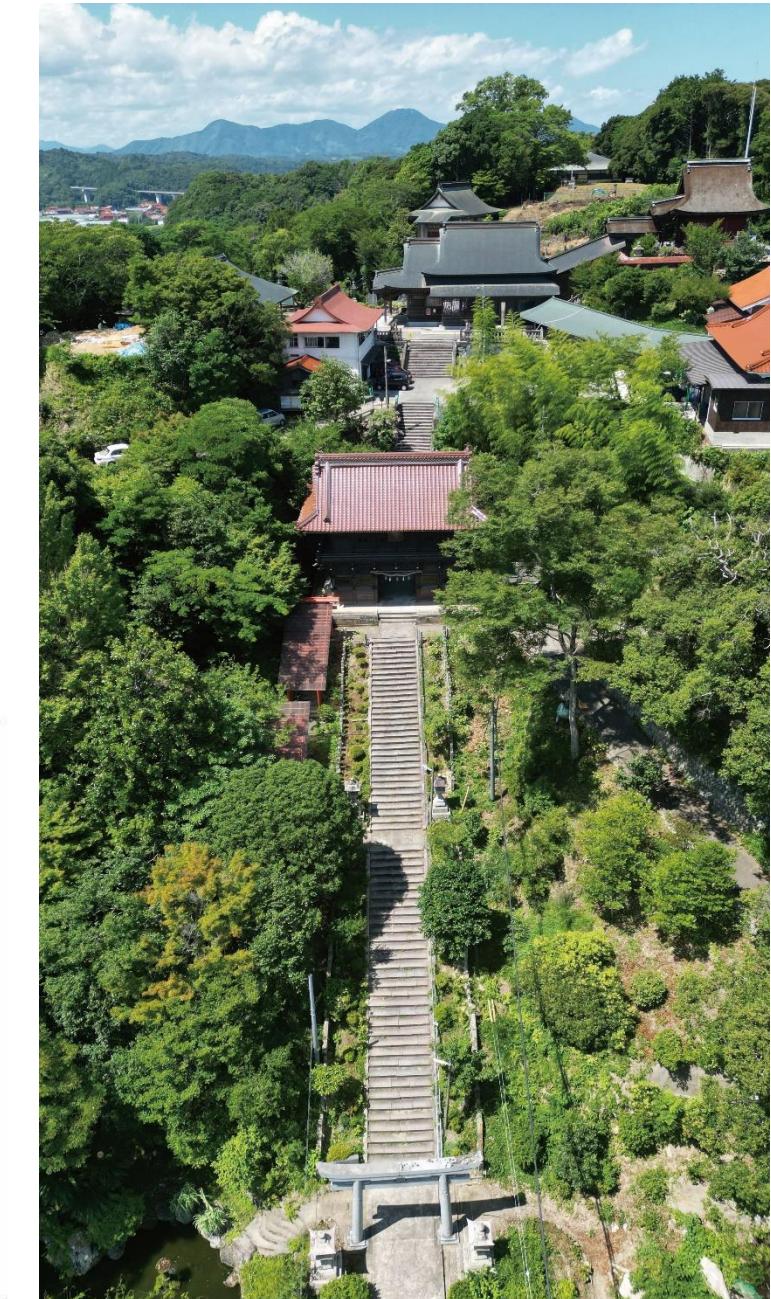


右：稻積城跡、正面手前：七尾城跡、左：三宅御土居跡と袴田狭所

# 高津城跡



高津城跡とその周辺



高津柿本神社

# 南北朝の内乱

## 内乱の継続

- その後、1348年頃まで北朝方は美濃郡（益田市）・那賀郡（浜田市・江津市）を転戦するが、南朝方は三隅氏を中心に根強く抵抗する。
- 板井川城、河上城、福屋城、小石見城、三隅城、周布城、鳥屋尾城、都野城、丸毛城、木束城、井野村城などで合戦が行われる。



# 南北朝の内乱 観応の擾乱

- 1350年に観応の擾乱が起  
こると、石見は足利直冬の  
勢力が席巻、内乱が長引く。
- 黒谷城、三隅城、豊田城、  
高津城などで合戦が行われ  
る。



# 南北朝の内乱 内乱の終焉

- ・南朝方として周防・長門を統一した大内弘世は北朝方に転じ、1364年に益田兼見を味方につけ、1366年に益田兼見と供に石見国を転戦し南朝方を下し、石見における南北朝の内乱は終焉を迎える。
- ・三隅城、青龍寺城、有福城、福屋大石城、金木城などで合戦が行われる。



2

## 石見西部における 戦国争乱と山城

# 戦国時代の石見の状況

- 主要な領主が周辺の中小領主を支配下におさめ、郡規模の支配を実現していく。
- 一方、南北朝時代に存在感を発揮した三隅氏は、内紛を繰り返し、弱体化につながる。
- 戦国時代の益田氏当主、益田藤兼を中心に、石見の戦国時代史を見る。



一部の家紋は「見聞諸家紋」  
(国立公文書館デジタルアーカイブより  
<https://www.digital.archives.go.jp/das/meta/M10000000000000051051.html>)

# 陶晴賢（隆房）の下剋上

- 1551年、周防・長門を中心に西日本地域に大きな勢力を誇った大内義隆が家臣の陶晴賢らによって滅ぼされる（陶晴賢の下剋上）。
- この下剋上は陶晴賢単独で起こしたものではなく、他の大内氏重臣や、大内氏領国周辺の領主らも味方に付けて行われたものであった。
- このとき陶晴賢に協力した有力な領主が益田藤兼と毛利元就であった。



益田藤兼像（益田家所蔵）

陶隆房

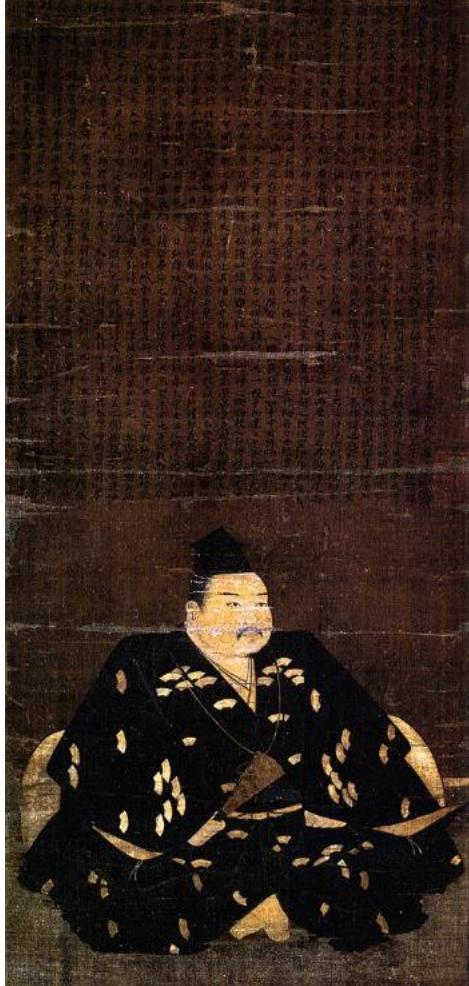
周布家文書  
益田市所藏

多力少也性重  
の氣は我に通じ  
無知未だ悟れ  
てはまく此を解  
得る事無事無事  
生事志む體多才  
門第人所不思量  
此一子承前業  
かくす  
九月廿日  
陶隆房

周布家文書  
益田市所藏

陶隆房書狀（益田市所藏「周布家文書」）

# 益田氏と陶氏



陶弘護像（龍豊寺所蔵。周南市美術博物館寄託）



益田兼堯像（益田市所蔵）

- 益田氏と陶氏は、応仁の乱頃から同盟関係を結んでいた。
- 益田兼堯の娘が陶弘護に嫁ぎ、その後も婚姻を重ねる。
- 益田藤兼の父益田尹兼は陶隆房と義兄弟契約を結ぶ。



陶隆房契約状（東京大学史料編纂所所蔵「益田家文書」）

# 益田藤兼の役割

- ・益田藤兼は周布氏や福屋氏に陶晴賢への協力を呼びかける役割を担っていた。
- ・益田氏は石見の領主の盟主的な立場にあった。
- ・同様の役割を安芸・備後で果たしたのが毛利元就であり、この時点で益田藤兼と毛利元就是同じような立場であった。



益田藤兼像（益田家所蔵）



# 周布城跡 (鳶ヶ巣城)





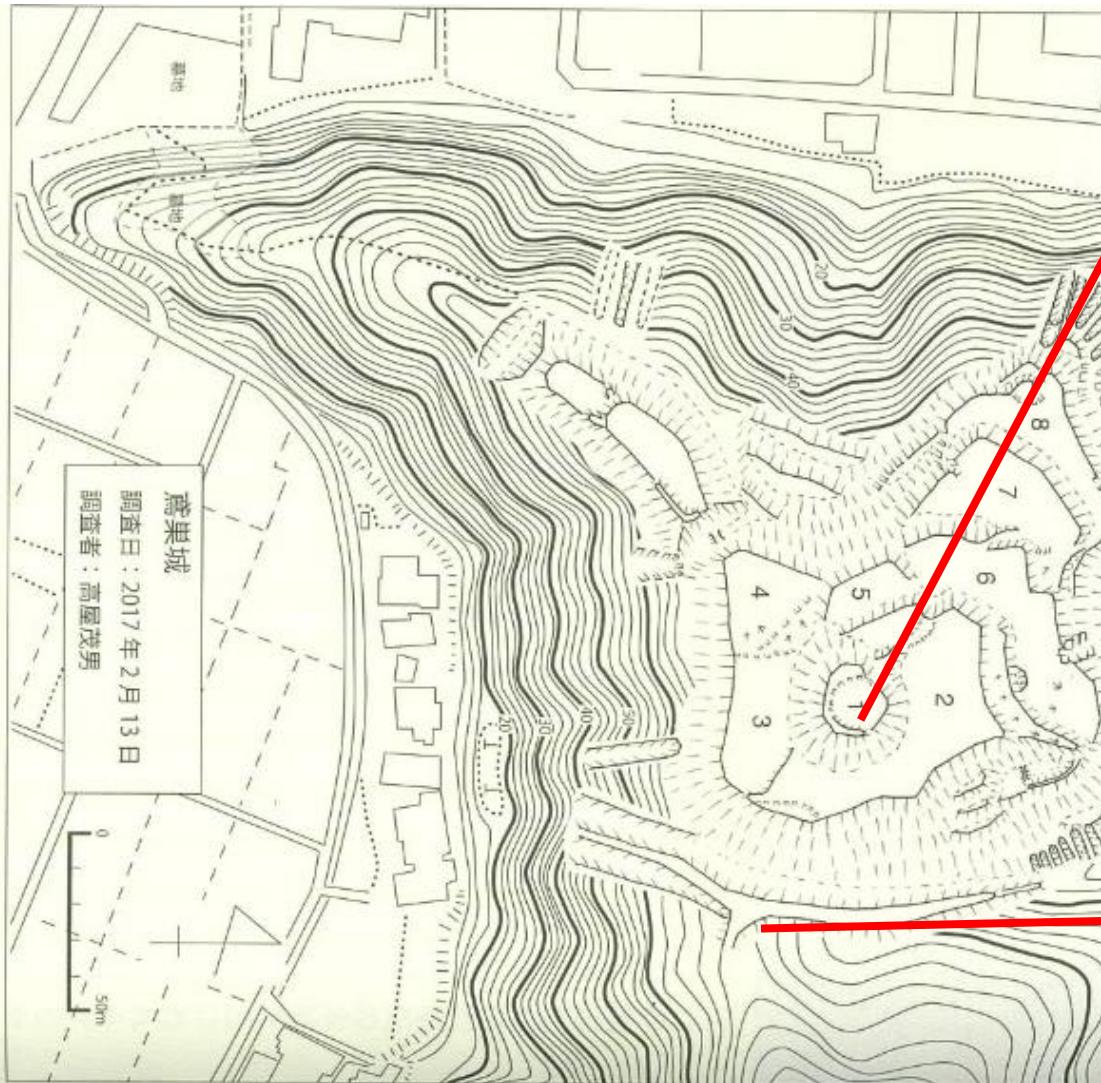
# 周布城跡 (鳶ヶ巣城)

- 周布氏の菩提寺聖徳寺の後背に位置し、周布川と周布の平野部を押さええる。



# 周布城跡(鳩ヶ巣城)

荒城跡  
所在地：浜田市周布町  
調査日：2017. 2.13  
調査者：高屋茂男



鳩巣城跡縄張図（高屋茂男氏作成。同編『石見の山城』より）

# 吉見氏攻め

- 大内氏の実権を握った陶晴賢は、競合する領主の討滅を進め、1554年から益田氏とともに吉見氏を攻める。



津和野城跡（ただし石垣等は江戸時代以降のもの。<https://japan-heritage-tsuwano.jp/jp-news/notice/6762/>）

- 陶氏は津和野城（三本松城）を包囲するが、毛利元就が離反したため、吉見氏と和睦して安芸国（広島県西部）へと転戦していく。

# 津和野城跡 (三本松城)



鷺原八幡宮の流鏑馬

(<https://www.kankou-shimane.com/destination/20756>)



●陶ヶ岳



永明寺 (<https://www.kankou-shimane.com/destination/20932>)



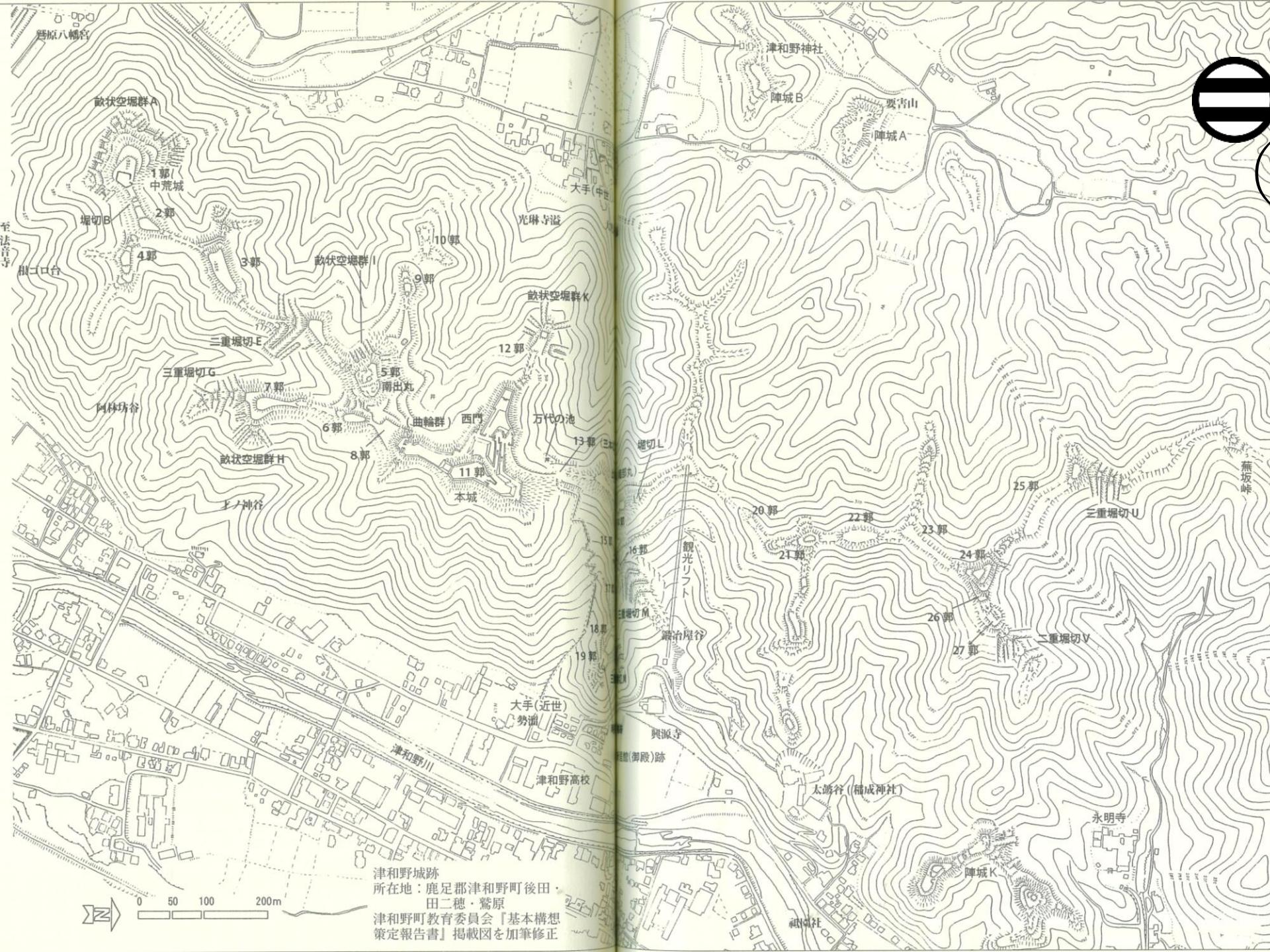
鷺舞

(<http://kirariiwami.blog.fc2.com/blog-entry-31.html>)

地理院地図

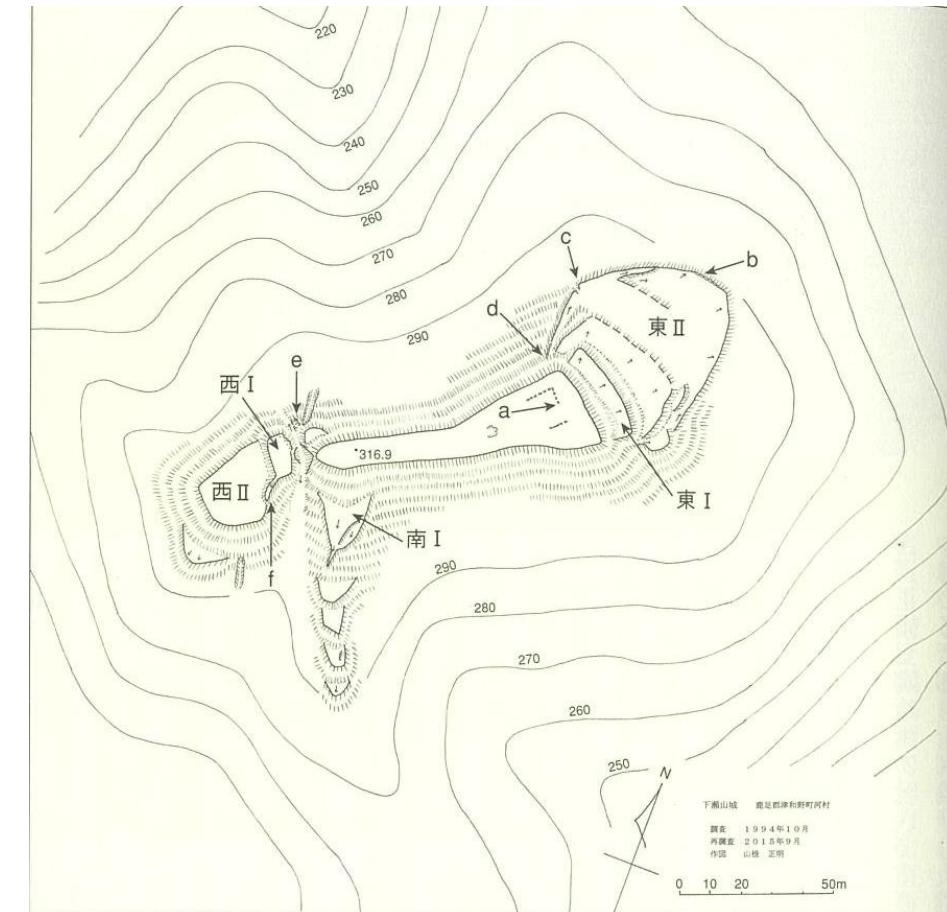
# 津和野城跡 (三本松城)

- 近世城郭として上書きされている。
- 中世の時点では城郭の範囲はほぼ全山に及んだと思われる。
- 喜什方面が表というのはおそらく誤り。



# 下瀬山城をめぐる攻防

- ・益田氏は下瀬山城を攻撃するが、強固な抵抗にあう。
- ・このときの益田氏の調略が面白い。
- ・益田氏はあの手この手で降伏や寝返りを促している。



下瀬山城跡  
所在地：鹿足郡津和野町河村  
調査：1994.10  
再調査：2015.9  
作図：山根正明

(高屋茂男編『石見の山城』より)

# 下瀨山城跡

青原駅

津和野町

# 益田藤兼、三隅を攻める

- 陶氏が吉見氏と和睦したため、益田氏は三隅氏を攻める。
- 1555年、益田氏は針藻城や鐘尾城を攻略し、三隅の沿岸部を支配下におさめる。
- その後も三隅氏は高城を死守するが、1562年頃に攻略されたと思われる。



益田藤兼像（益田家所蔵）

三 隅



針藻城跡からの眺望

# 高城跡



- 高城は南北朝時代に北朝方が優勢になつても長らく落城しなかつた。
- 戦国時代にも他の城根が攻略される中、強く抵抗している。



高城跡  
所在地: 浜田市三隅町三隅  
調査日

調査者: 伊藤創・藤田大輔/高屋茂男

崩落が激しいところ調査不能のところは、「石見の山城」掲載図を参考し加筆修正 (高屋)

グレー線: 想定される導線 (城内通路)



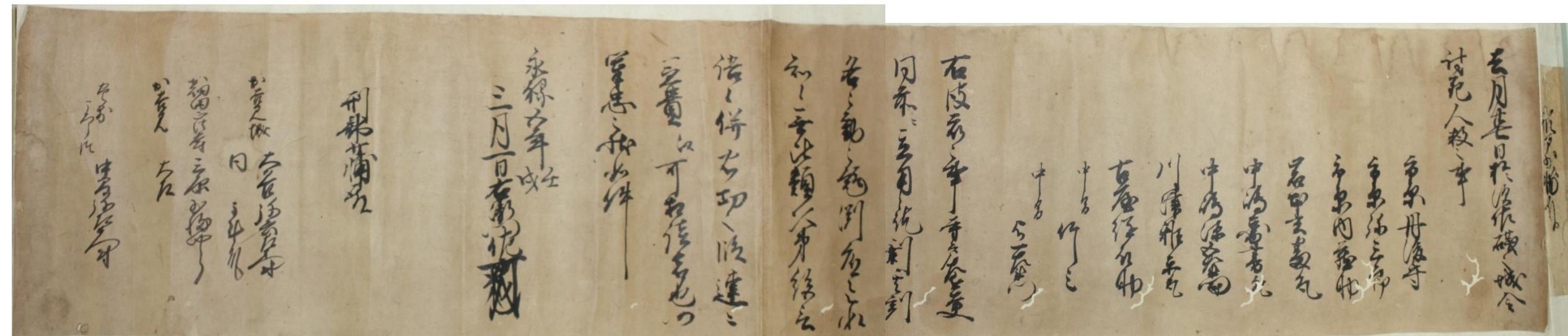
# 大内氏滅亡後

- ・巌島合戦で陶晴賢が敗死し、毛利氏が大内氏をも滅ぼすと、益田氏・吉見氏は長門国阿武郡に勢力を拡大する。
- ・当初は沿岸部を益田氏、内陸部を吉見氏が押さえれる。



# 須佐磯之城合戦

- ・大内氏・陶氏が滅亡したことで、益田氏は毛利氏と吉見氏に包囲される形になる。
- ・益田氏は毛利氏との和睦を進めるが、吉見氏に所領を奪われる。
- ・1562年、益田氏は須佐を吉見氏により奪われる。



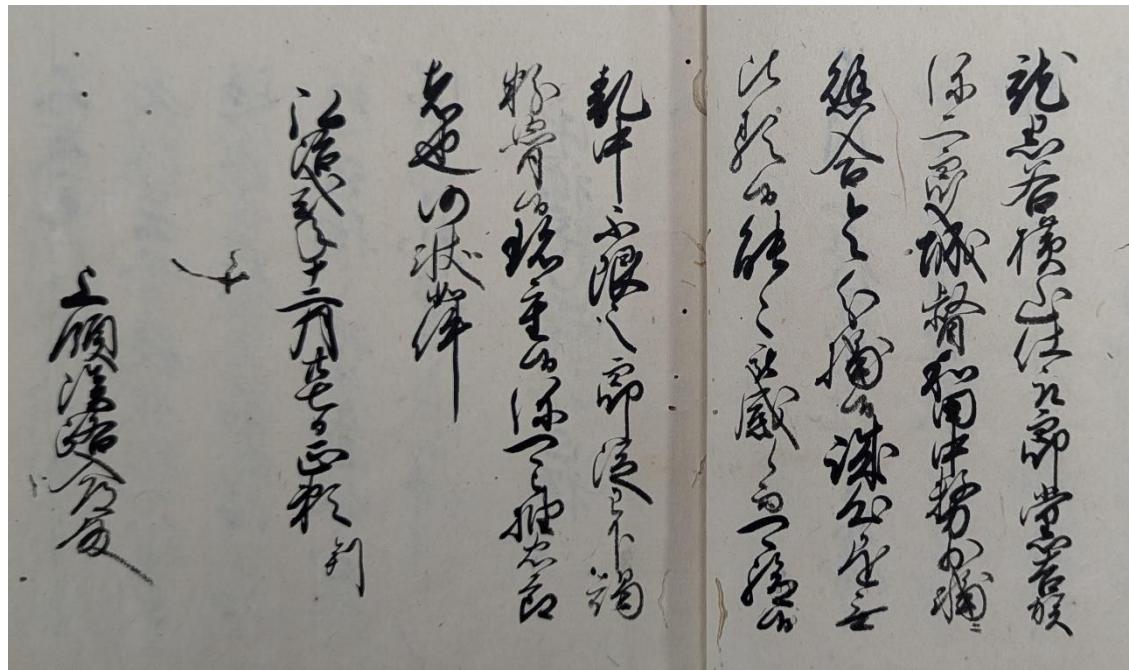
# 1562年以降

- 吉見氏が長門国阿武郡の大半を支配下におさめ、それは毛利氏の防長両国支配の下でも認められる。

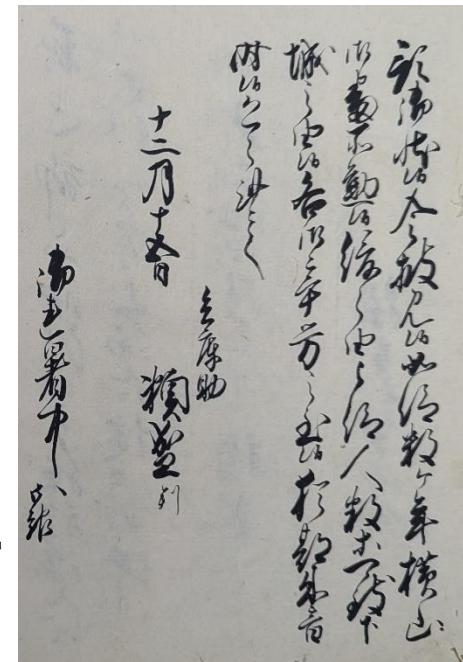


# 境目の城 横山城

- ・吉見氏への対抗上、益田氏が重視していたのが横山城。
- ・1551年に吉見氏を攻めたが撃退された益田藤兼は、横山城の守りを固めている。
- ・しかし、1556年に横山城は吉見氏が攻略する。
- ・その後は吉見氏の対益田氏最前線の城となる。



吉見正頼感状写(山口県文書館所蔵「閥閱録」卷143吉賀)



吉見頼盛書状写(山口県文書館所蔵「閥閱録」卷148下瀬)

# 横山城



# 横山城跡縄張図



# 福屋氏の滅亡

- ・福屋氏については謎が多い。
- ・益田氏が毛利氏との和睦を模索していた際、吉川元春と福屋氏が毛利元就に断らずに和睦を進め、元就に激怒されている。
- ・大内氏を吉見氏と共同で攻めていたのに、吉見氏の仇敵である益田氏との和睦を進めたため。
- ・一方、毛利氏は福屋氏と関係の悪かった小笠原氏を服属させたことで、これにより福屋氏の離反を招いたとされる。
- ・1562年、福屋氏は毛利氏により滅ぼされる。

# 滅亡時の福屋氏の勢力(一部推定)



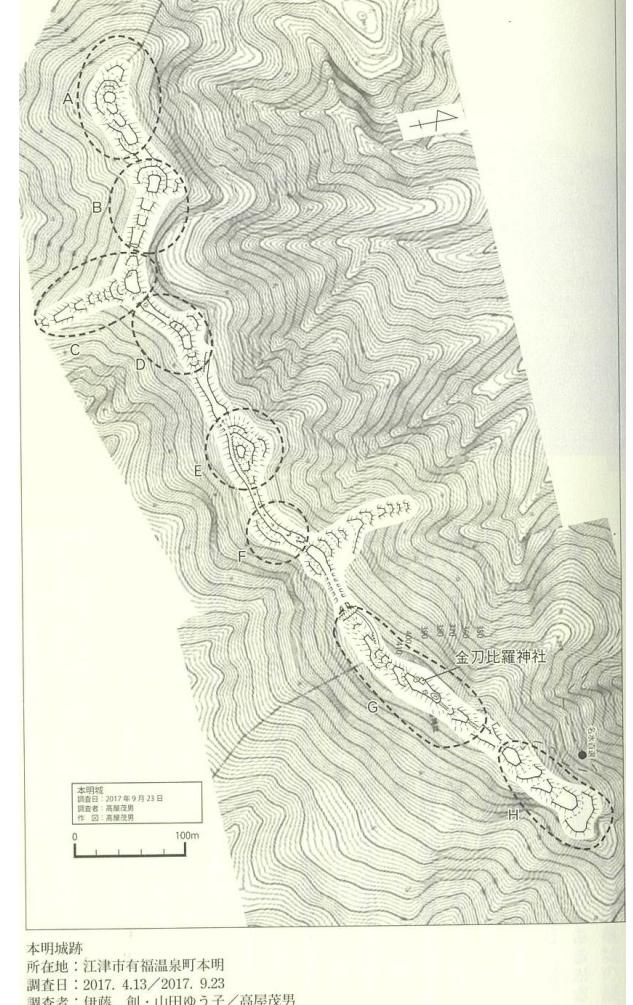
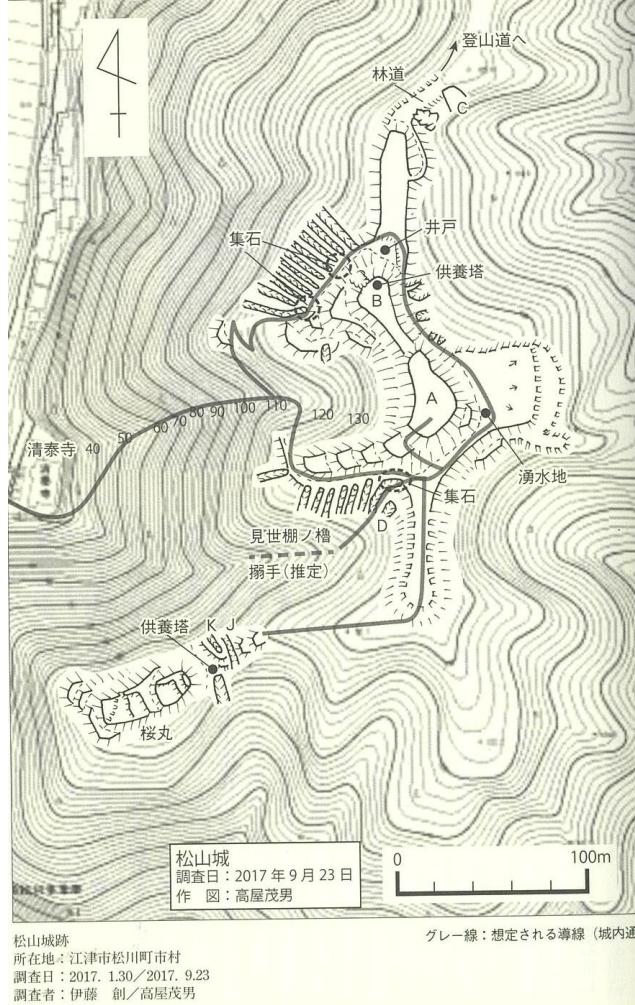
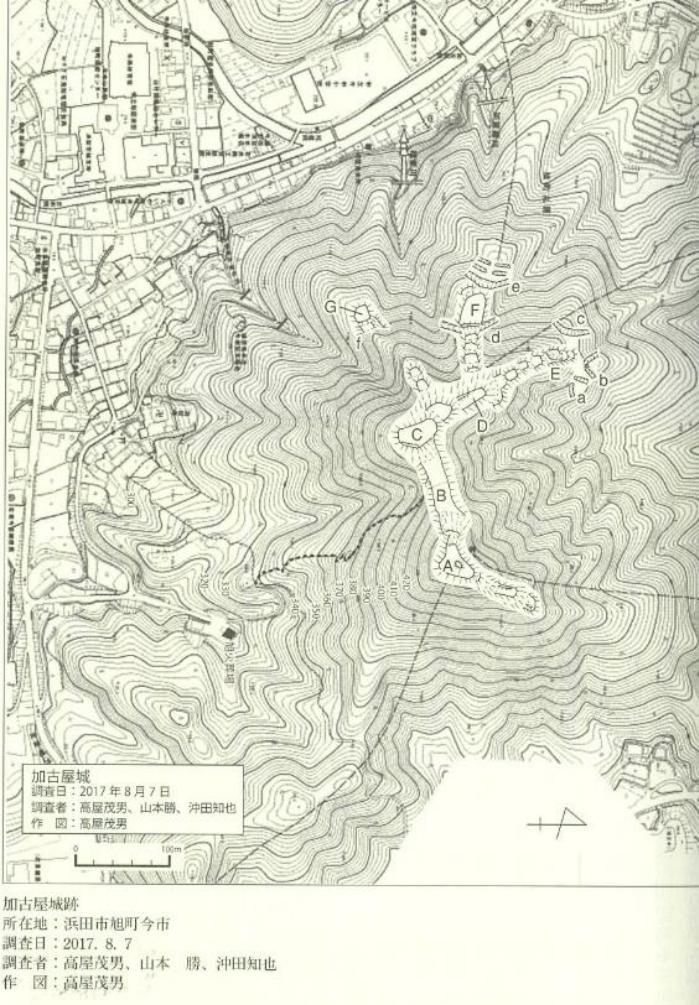
+

-

5 km



# 福屋氏？の山城 (加古屋城・松山城・本明城)



(いずれも高屋茂男編『石見の山城』より)

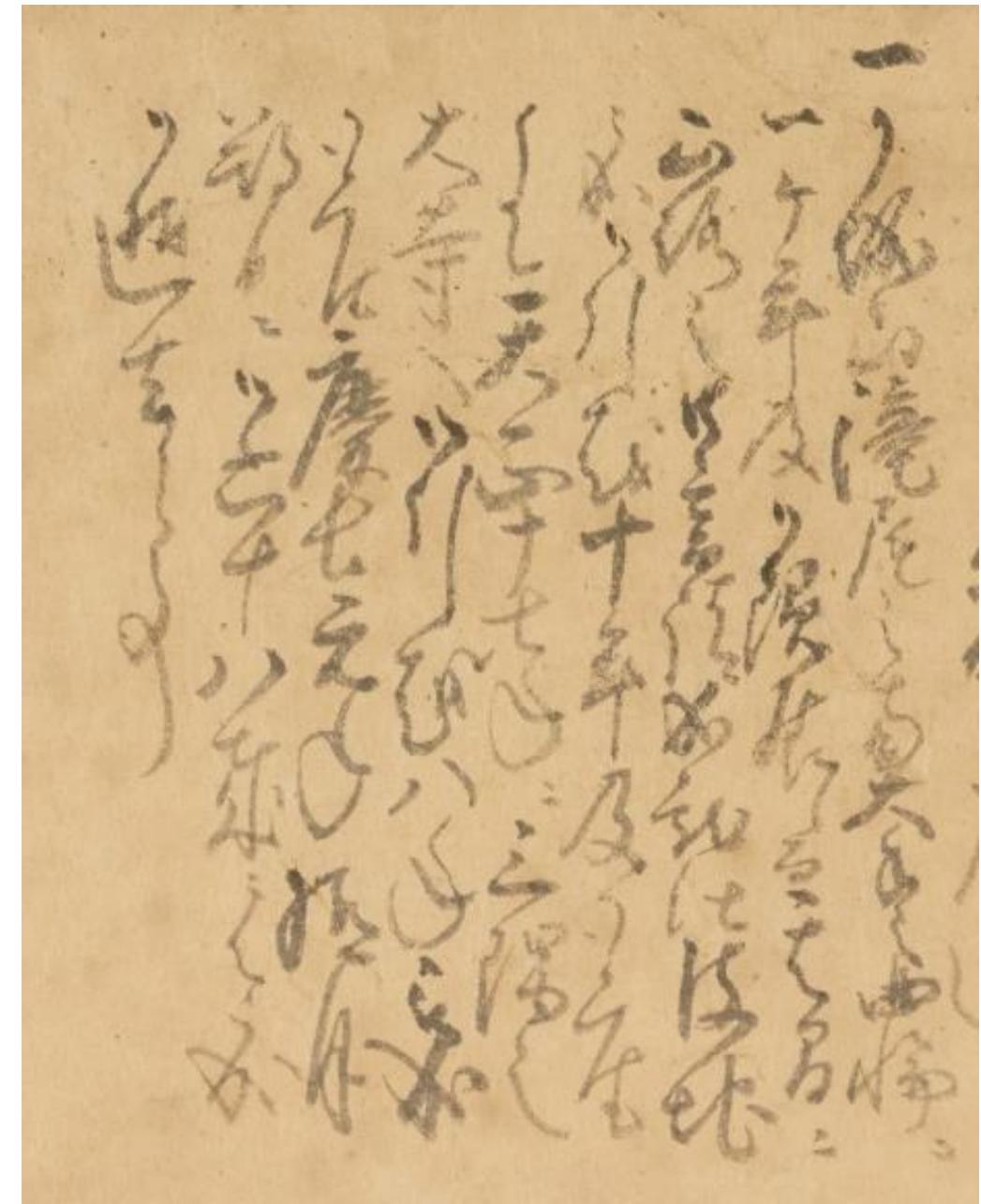
# 七尾城の構造

# 益田藤兼と七尾城

- ・益田藤兼は毛利氏との決戦に備えて七尾城を改修したとされる。
- ・また、その後半生の十年ほど七尾城に住んでいたと考えられる。



益田藤兼像（益田家所蔵）



益田藤兼領地覚書（東京大学史料編纂所所蔵  
「益田家文書」）

# 七尾城

- もとは北東方向の尾根の先端部分だけであつたのが、戦国時代までに全山要塞化したと考えられている。

七尾城想像図

(監修：千田嘉博、  
画：香川元太郎)



七尾城  
所在地：益田市七尾町  
調査日：2016.12.2・2017.3.27  
調査者：高屋茂男



二の段北端の礎石建物跡と庭園跡

高屋茂男氏作成  
(高屋茂男編『石見の山城』より)

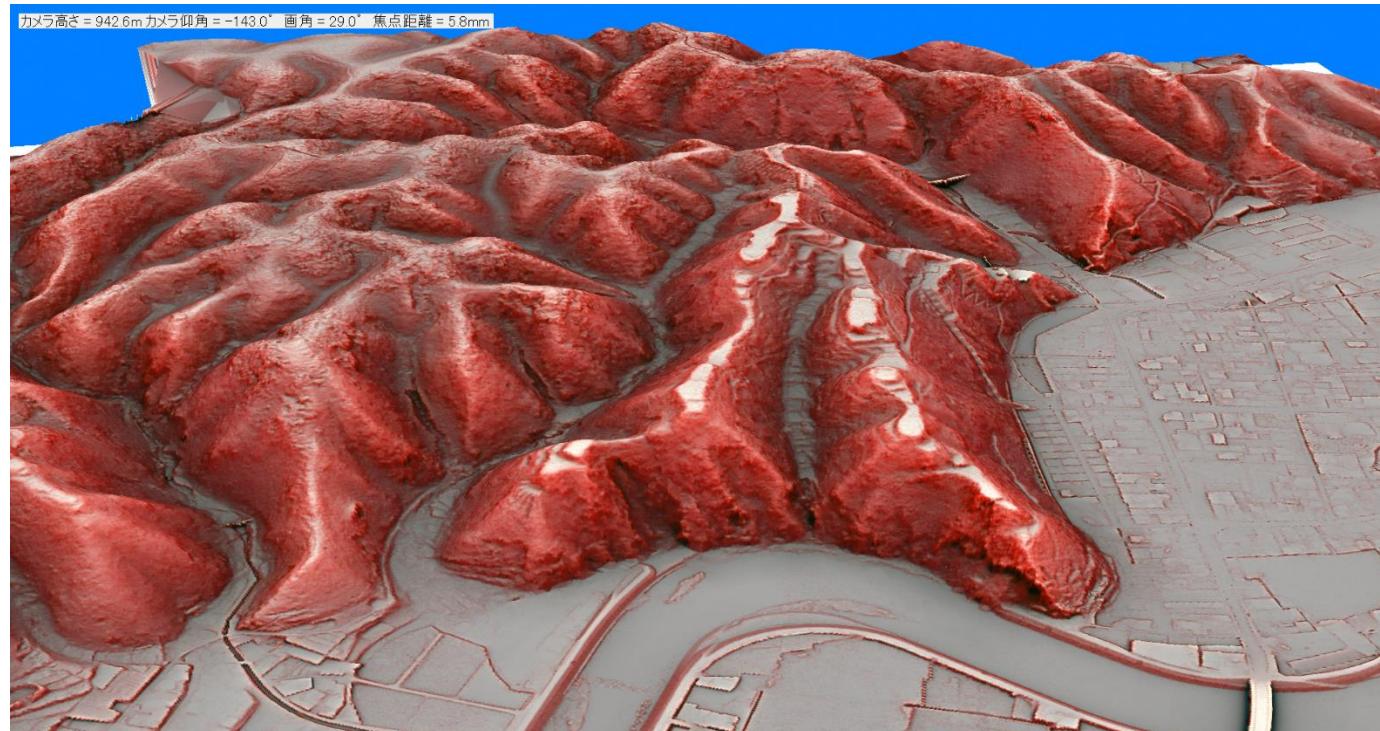
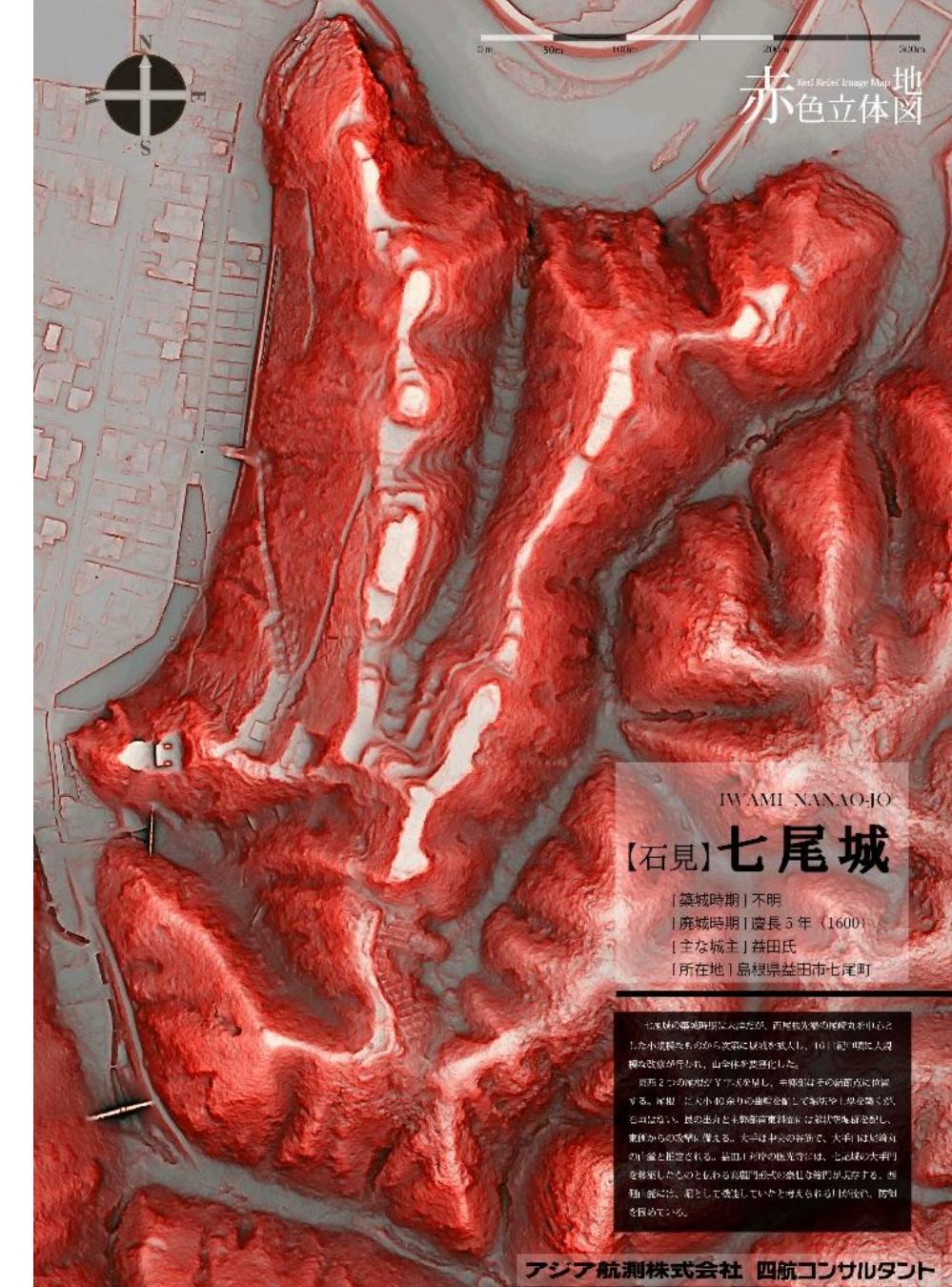


本丸北端で確認された礎石建物跡  
(櫓門跡)(上)と復元想像図(下)

# 七尾城の構造



医光寺總門







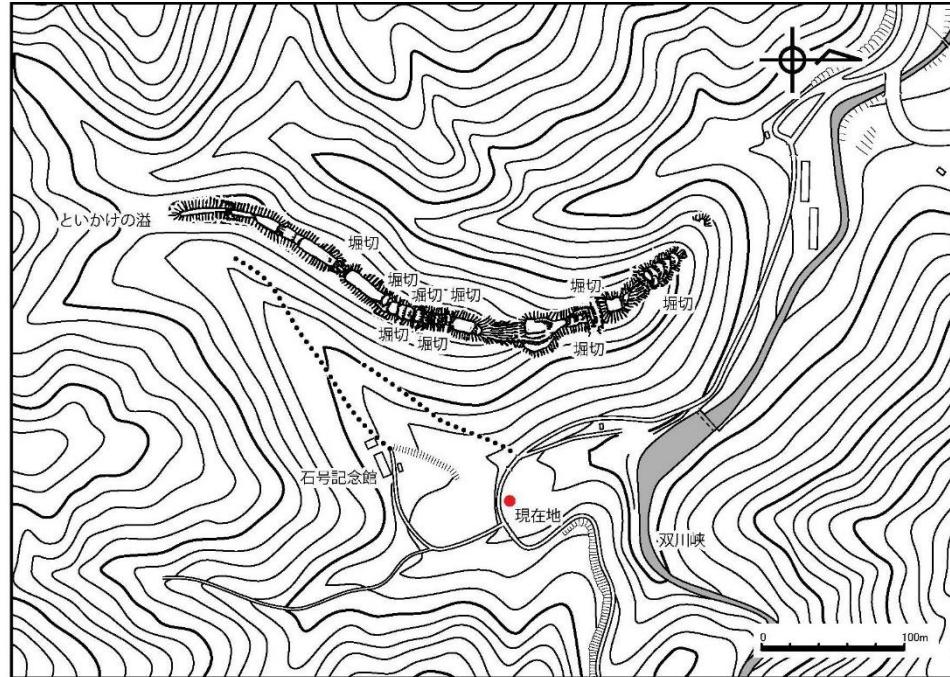
美濃郡上本郷村道水路図(部分)

妙義寺

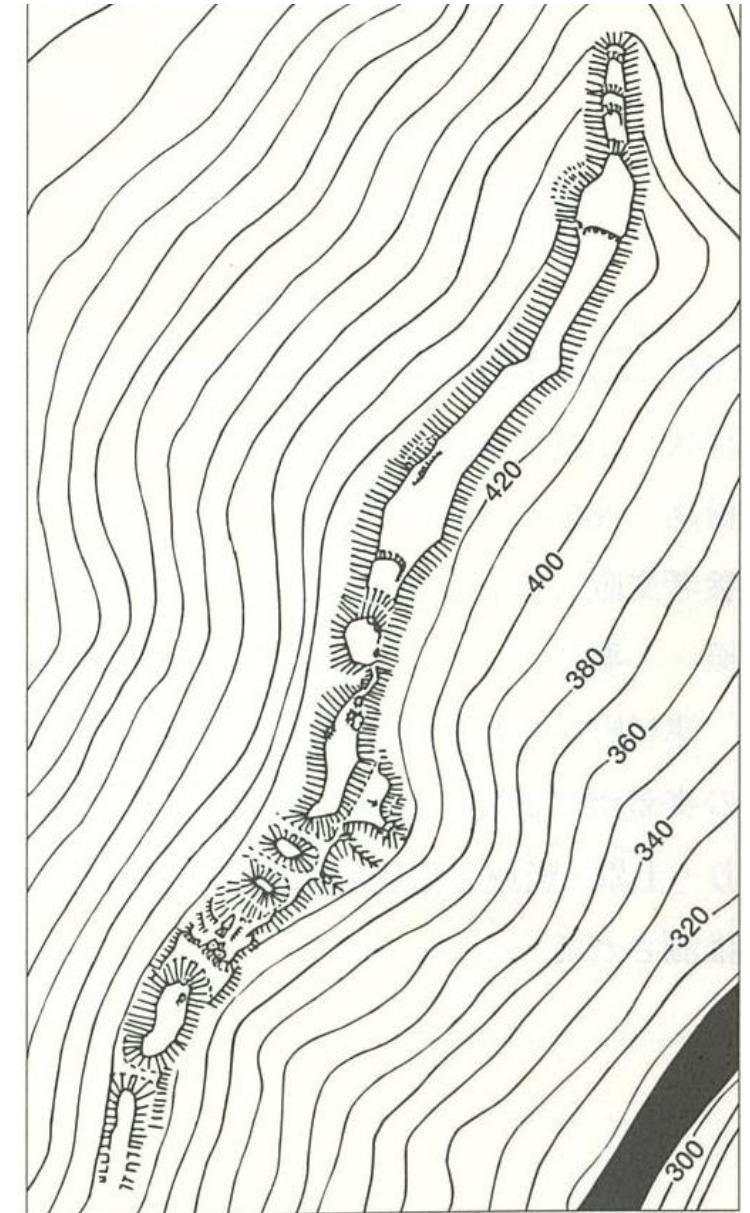
七尾城跡・住吉神社

# 類型 1

- 細長い尾根をいくつも堀切で分断したもの。



板井川城跡縄張図(岩崎健氏作成のものに加筆)(上)、  
ドローン写真(ひとまろビジョン提供) (下)

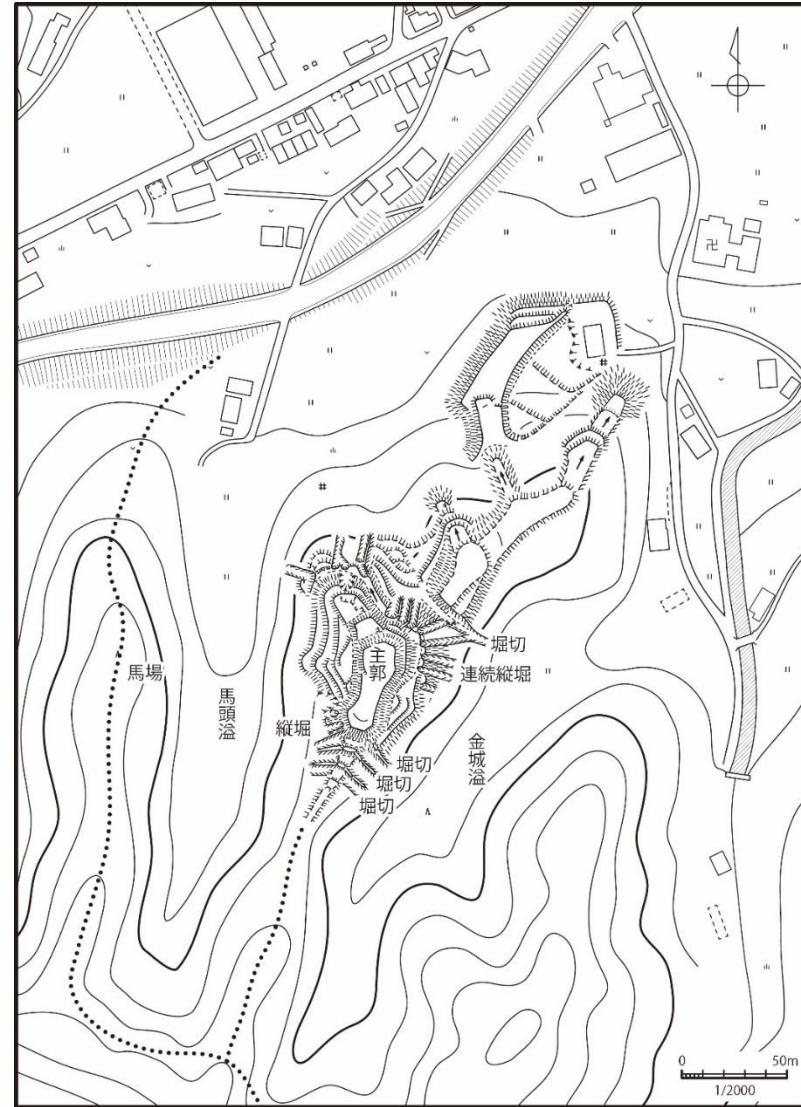


小松尾城跡略測図 ( $S=1:4,000$ )

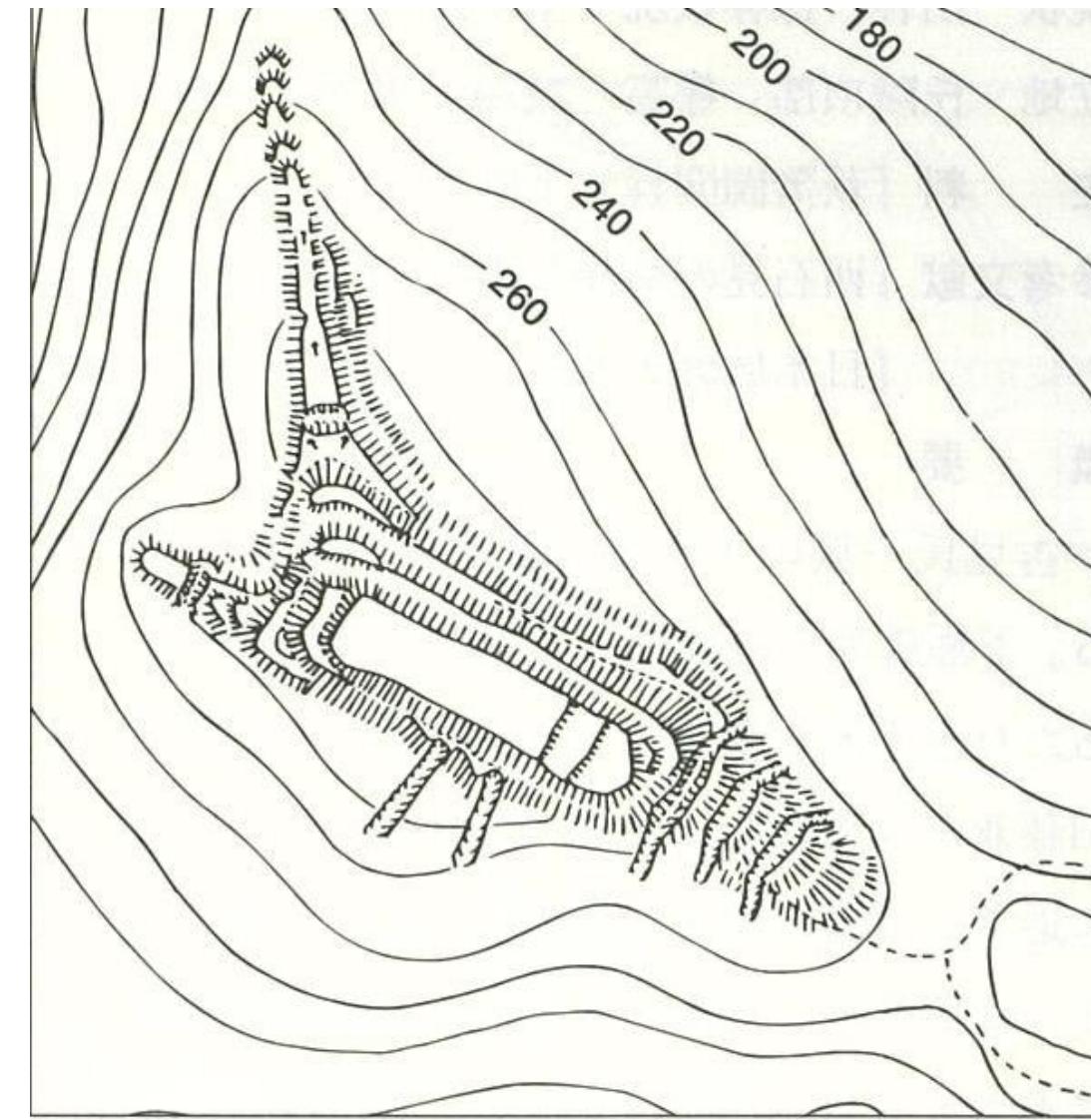
小松尾城跡縄張図(寺井毅氏作成。  
島根県教育委員会1997年)

## 類型 2

- 突出した尾根の先端部を要塞化したもの。背後分を三重の堀で遮断する場合が多い。



丸茂城跡縄張図(寺井毅氏作成。島根県教育委員会1997年)に加筆

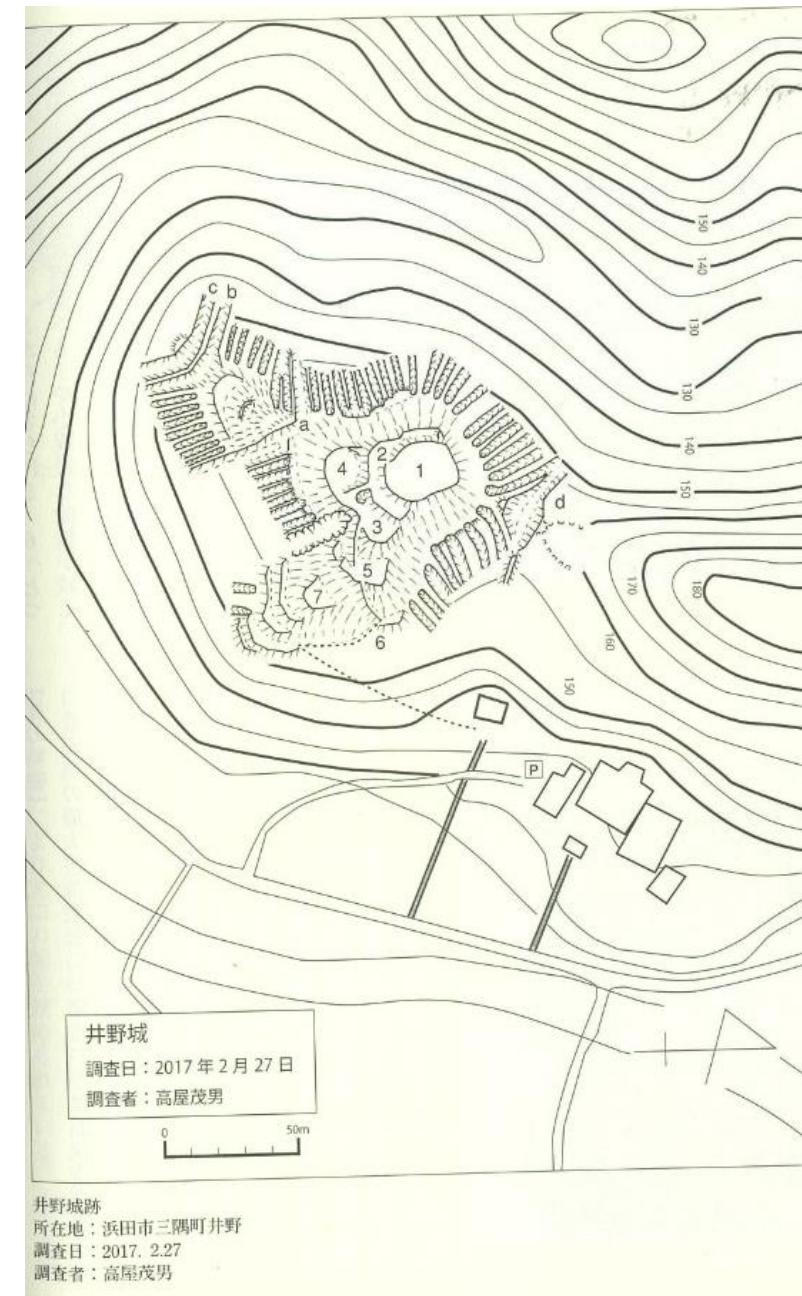
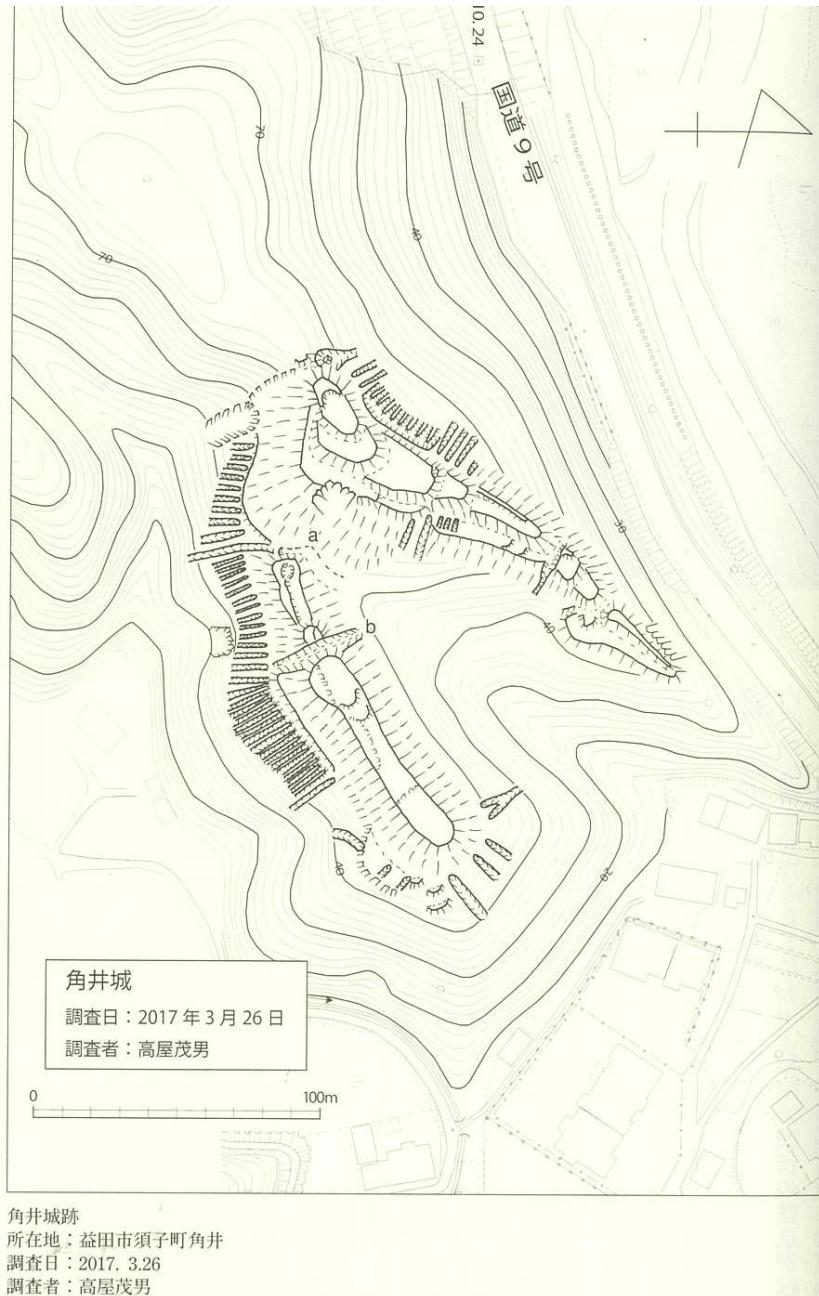


叶松城跡略測図 (S=1:3,000)

叶松城跡縄張図(寺井毅氏作成。島根県教育委員会1997年)に加筆

# 類型 3

- ・周囲を取り囲むように畝状豎堀群が施されたもの。
- ・戦国期に戦略上重要な山城に作られたか。



(いづもれ高屋茂男編『石見の山城』より)

# おわりに

- ・石見は中世をそのまま閉じ込めたような地域。
- ・山城だけではなく、その周辺にゆかりの寺社やその他の遺跡、石造物などが多くのこる。
- ・ぜひ現地をまわってみてください。